



Higashi Sapporo
Hospital's
Newsletter MADO

July 2025 No.121

Higashi Sapporo Hospital
医療法人
東札幌病院

2025年7月発行
発行責任者／病院長 日下部俊朗
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
TEL.011-812-2311(代表)
FAX.011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: https://www.hsh.or.jp

「Human Dignity(人間の尊厳)」 概念から読み解く Financial Toxicity: がん医療における倫理的再考

医療法人東札幌病院 理事長 石谷 邦彦



はじめに

2025年6月26日から3日間、シアトルで開催されたMultinational Association of Supportive Care in Cancer (MASCC)の年次大会に参加した。今回のプログラムは、科学的議論の深度と構成の整合性において際立っており、従来の年次大会とは一線を画していた。私が特に注目したのは、がん医療において国際的に喫緊の課題とされている「Financial Toxicity(財政的毒性、経済的毒性とも訳される)」に関するセッションであった。今回の参加の主目的はこの問題に取り組む国際的な研究者たちの「生の議論」に触れることであった。

Financial toxicity研究の現在

Financial toxicityは、がん治療において近年の高額な分子標的薬や免疫療法薬、遺伝子治療薬などの登場により、それらに伴う経済的負担が患者や家族に与える多面的な負の影響を意味し、医療政策や臨床倫理の上で急速に問題視されている。これまでの研究の多くは、Financial toxicityの実態把握に重点が置かれ、経済的困難が治療の継続やQuality of Life(QOL)に及ぼす深刻な影響が繰り返し指摘されてきた。最近ではこの問題の解決に向けてのshared decision making(SDM、医療者と患者が協働して治療方針を決定する手法)に注目が集まっている。とくに、decision aids(意思決定支援ツール)やcost communication(費用に関する対話)などの実装が進みつつあり、患者が自身の価値観と経済状況を踏まえて納得のいく選択を行うための支援が強化されている。これらの研究は現場での個別の意思決定プロセスにSDMをどう組み込むかという議論に収斂していると言える。しかしながら、現在のがん医療、とくにがん緩和ケアで実践されている多職種連携の文脈では、もはやSDMは自明の枠組みとして臨床現場に組み込まれている。その意味では今回の年次大会での議論もその域を超えてはいなかった。しかし、研究者たちの探究心と臨床的関心の高さは、問題の切実さを如実に物語っていた。

Human Dignity(人間の尊厳)概念

20世紀後半から21世紀初頭にかけての医療のエピステーメ(一時代の文化全体の基底にある認識の系あるいは根底的な「知」;ミッシェル・フーコー)は、QOLという概念によって支えられてきた。がん医療においても、患者中心の価値観に立脚したQOLの向上は、医療実践を飛躍的に発展させてきた。しかし近年、私はSapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer(SCPSC、がん緩和ケアに関する国際会議)のnewsletterなどで繰り返し述べてきたように、QOLという可視的・計量的指標では捉えきれない、より根源的な倫理的基盤としての“Human Dignity(人間の尊厳)”の概念が、医療実践の中心の原理として浮上しつつあると考えている。

ここで言う human dignity は、一般的に定義が曖昧のまま使われている「尊厳」や「威厳」の意味ではない。カントが『道徳形而上学の基礎づけ』において定義したように、human dignityとは「人格がそれ自体として目的であり、いかなる場合にも単なる手段としてのみ扱

われてはならない」という原理に基づくものである。これは、人間の存在が本質的に交換不可能かつ不可侵な価値を持つという哲学的立場であり、私たちが行う医療行為、さらには治療方針の選択や制度設計に至るまで、常に人間を「目的」として扱っているか否かを問うための基準となる。この視点から解けば、患者を「治療の対象」ではなく「意味をもって生きる存在」として捉えることであり極めて重要な明示を与えている。

文化的倫理から考える Financial toxicity

Financial toxicityの問題は、単なる経済的負担の可視化にとどまらない。むしろ、それが患者の自己形成・意味の生成—すなわち「自らの人生を自らのものとして語り、選び、生きる」という営み—を阻害していないかを問う倫理的課題である。経済的理由で最適な治療が選択できない、あるいは選択できたとしても、その判断が自由意思に基づくと思えるには社会的圧力が大きすぎる—こうした構造的課題において、「患者の意思を尊重した」という制度的正当性だけでは、倫理的な責任を果たしたとは言えない。

この文脈を「文化的倫理」とすれば、単なる倫理規範や制度の問題にとどまらず、医療が社会的・歴史的・文化的文脈のなかで、人間の生き方・死に方の価値観と深く結びついていることを踏まえた倫理的視座を意味する。すなわち、患者やその家族がもつ人生観や死生観、社会的背景を尊重しながら、その文化的文脈のなかで医療行為がなされることを求める倫理の層である。

私は常々、「医学はサイエンスであり、医療は文化である」と述べてきた。文化とは、物質的・制度的側面（物質文化）から始まり、行動・関係性（行動文化）を経て、価値観・死生観（精神文化）へと昇華されていく重層的構造を持つ。Financial toxicityの問題は、この文化の昇華過程を物質的レベル、つまり経済的制約によって初期段階で断ち切ってしまう危険性を孕んでいる。

経済的困難が、患者が語ること・願うこと・意味づけることを静かに奪っていく—それは治療選択の問題であると同時に、文化的倫理の問題でもある。

結語

こうした状況を踏まえ、今後のFinancial toxicityを含めたがん医療における議論では、**human dignity**を倫理的出発点として据え、その根源的価値を基盤に医療実践を再構築することが不可欠である。そこからはじめて、QOLやSDMといった実践的概念の意味が改めて照らし出され、単なる手続き的正当性を越えた深い倫理的理解へと導かれるのである。Financial toxicityに直面する患者の支援とは、患者が「人としての意味ある生」を全うするための環境をいかに守り、いかに支えられるかを問い続けることであり、私たちの最も本質的な責務である。

参考文献

1. Kant I. *Groundwork of the Metaphysics of Morals*. Translated by Mary Gregor. Cambridge University Press; 1997.
カントによる倫理学の基礎を築いた古典的著作。人間の尊厳を「人格がそれ自体として目的である」と定義した理念は、現代医療倫理の根幹にも通じる。
2. Zafar SY, Abernethy AP. *Financial toxicity, Part I: a new name for a growing problem*. *Oncology (Williston Park)*. 2013;27(2):80-81,149.
「財政的毒性」という概念を初めて広く提示したバイオニアの論文。がん治療に伴う経済的困難が患者のQOLや治療選択に与える影響を指摘している。
3. Delgado-Guay MO, Ferrer J, Rieber AG, et al. *Financial distress and its associations with physical and emotional symptoms and quality of life among advanced cancer patients*. *Oncologist*. 2015;20(9):1092-1098. doi:10.1634/theoncologist.2015-0026
進行がん患者における経済的困窮と身体的・精神的症状、QOLとの関連性を明らかにした実証研究。financial toxicityの臨床的影響を裏付ける。
4. Elwyn G, Frosch D, Thomson R, et al. *Shared decision making: a model for clinical practice*. *J Gen Intern Med*. 2012;27(10):1361-1367. doi:10.1007/s11606-012-2077-6
共有意思決定(SDM)の臨床モデルを提示した代表的論文。患者と医療者の協働に基づく治療方針の決定を、実践的に支援する枠組みを提案している。
5. Kleinman A. *The Illness Narratives: Suffering, Healing, and the Human Condition*. Basic Books; 1988.
医療人類学の古典的名著。病いの語りを通して、医療が文化的・個人的文脈の中でどのように理解されるべきかを示しており、「文化的倫理」の土台となる。
6. Mack JW, Smith TJ. *Reasons why physicians do not have discussions about poor prognosis, why it matters, and what can be improved*. *J Clin Oncol*. 2012;30(22):2715-2717. doi:10.1200/JCO.2012.42.4564
医師が厳しい予後患者と共有しない理由を分析し、その重要性と改善点を論じた短報。意思決定支援における「沈黙の構造」を問う視点を含む。
7. Ishitani K. *SCPSC Newsletter New Year Special Issue has been published on BMJSPCare Blog*.
<https://blogs.bmj.com/spcare/2024/02/15/irs-scp-sc-newsletter-new-year-special-issue/>
BMJ Supportive & Palliative Care Blogに掲載されたSCPSCニュースレターの新年特別号。QOLを超えてhuman dignityを中核に据えた視点が提示されている。

令和6年度東札幌病院業績

(令和6年4月1日～令和7年3月31日)

医局

英語論文(症例報告)

1. Matsunaga T, Kita H, Naito K, Morimoto M, Nakanishi K.
Treatment of Catheter-Associated Internal Jugular Vein Thrombosis Using Apixaban for Less Than Three Months in Two Patients With Aggressive B-cell Lymphoma Undergoing Rituximab, Cyclophosphamide, Doxorubicin, Vincristine, and Prednisolone Therapy. Cureus. 2024 Apr 18;16(4):e58528. doi: 10.7759/cureus.58528.

国際学会(一般演題・ポスター・ランチョンセミナー)

1. Michio Nakamura, Koshi Fujikawa, Takeshi Terui, Seiko Nishioka, Susumu Sogabe, Kazuhiko Koike, Daisuke Hirate, Yoshito Komatsu, and Yasushi Tsuji.
Online survey research on healthcare professionals' experiences and responses to complementary and alternative medicine in cancer treatment: HERO-CAM, MASCC(Annual Meeting on Multinational Association of Supportive Care in Cancer)
2024.6.27～29(フランス)

全国学会(一般演題・ポスター・ランチョンセミナー)

1. Yuna Kang, Seii Ohka, Daisuke Nishizawa, Junko Hasegawa, Kyoko Nakayama, Yuko Ebata, Takeshi Terui, Kunihiko Ishitani, Ryoza Morino, Miyuki Yokota, Kyotaro Koshika, Tatsuya Ichinohe, Kazutaka Ikeda.
TMEM132C gene rs7296262 polymorphism showed significant associations with nausea induced by opioids for cancer pain and post-operative pain.
第35回国際神経精神薬理学会(The 35th CINP World Congress of Neuropsychopharmacology (CINP2024))
2024.5.23～26(東京)

2. Yusuke Sugama, Satoshi Iyama, Koji Hosokawa, Mina Baba, Shunsuke Akasaka. Yuzufumi Sekiguchi, Riku Hasebe, Shotaro Shirato, Saori Ibuki, Chisa Fujita, Akari Goto, Hiroto Horiguchi, Ryosei Murai, Akemi Endoh, Satoshi Takahashi, Masayoshi Kobune(Hematol., Sapporo Medical Univ., Sapporo, Japan, Division of Laboratory Medicine, Sapporo Medical University Hospital, Sapporo, Japan, Infection Control and Laboratory Medicine, Sapporo Medical Univ., Sapporo, Japan)
The predictive markers of RBC transfusion dependency in myelodysplastic syndromes.
第86回日本血液学会学術集会 2024.10.11～13(京都)
3. 太子芳仁、箕輪和行、井上農夫男、大内千里、石谷雄一、水越孝典
「下顎頭に生じた巨細胞肉芽腫の1例」
第69回 公益社団法人 日本口腔外科学会総会・学術大会 2024.11.22～24(横浜)

地方会

1. 伊藤智子、長岡康裕、佐賀潤也、日下部俊朗 「自然腎盂外尿溢流による急性腹膜炎を発症したものの、保存的治療にて症状が軽減した緩和ケアの1症例」 第135回日本消化器病学会北海道支部例会・第129回日本消化器内視鏡学会北海道支部例会 2024.08.31(札幌)
2. 叶 亮浩、曾ヶ端克哉、大村東生ら 「構築の乱れを想定したDBTの描出特性について」 第22回日本乳癌学会北海道地方会 2024.10.5(札幌)
3. 前田豪紀、大村東生 「市中病院におけるBRCA遺伝的検査」 第22回日本乳癌学会北海道地方会 2024.10.5(札幌)
4. 増岡秀次、大村東生ら 「35歳以下の乳がんと36歳以上の乳がんの異時性乳がんの発症率」 第22回日本乳癌学会北海道地方会 2024.10.5(札幌)
5. 松永卓也、池 美鈴、川原哉絵、佐藤直人、中西勝也

(東札幌病院 血液内科、JCHO札幌北辰病院 血液内科、JCHO札幌北辰病院 栄養管理室、JCHO札幌北辰病院 リハビリテーション部、JCHO札幌北辰病院 病理部)「The Asian Working Group for Sarcopenia 2019診断基準でサルコペニアの判定が不可能であり日本肝臓学会肝疾患におけるサルコペニア判定基準でサルコペニアと判定された80歳代のびまん性大細胞型B細胞性リンパ腫の3症例」 第5回日本病態栄養学会北海道地方会 2024.10.5(札幌)

座長

1. 信岡隆幸 日本栄養治療学会北海道支部 第16回支部学術集会 一般演題1 教育・研究1 2024.8.24(札幌)
2. 日下部俊朗 日本栄養治療学会北海道支部 第16回支部学術集会 一般演題2 教育・研究2 2024.8.24(札幌)
3. 照井 健 講演者:林 章敏(一般財団法人 ライフプランニング・センター、日野原記念ピースハウス病院 副院長) 特別公演「いま改めて ひとの痛みを理解し緩和する」 第8回豊平がん緩和研究会 2024.10.16(札幌)
4. 日下部俊朗 「胃瘻増設を伴う進行期パーキンソン病治療」 第21回北海道胃瘻研究会 2024.11.9(札幌)
5. 大村東生 第52回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 ランチョンセミナー3 2024.11.9(札幌)
6. 大村東生 第52回日本乳腺甲状腺超音波医学会学術集会 会長講演 2024.11.9(札幌)

講演

1. 石谷邦彦 「献体の意義『人間の尊厳(human dignity)概念を考える』 がん緩和ケア医50年の経験から」 市民公開講座 2024.10.13(札幌)
2. 大村東生 「乳がん検診について」 STVラジオ 2024.5.12
3. 大村東生 「乳がんと子宮頸がんについて」 札幌教育大学 2024.5.20
4. 大村東生 「乳房と甲状腺の病気について」 札幌武蔵女子短期大学 2024.6.3
5. 大村東生 「乳がんについて知ろう」 ピンクリボン in SAPPORO 2024.9.1

6. 大村東生 「乳がんの歴史、外科治療の変遷」 あけぼの会 札幌 2025.9.7
7. 大村東生 「乳がんの知識、早期発見の大切さ」 三角山ラジオ放送局 4回 2024.8.20~9.20
8. 大村東生 「乳がんの最新治療」 健康セミナー 東札幌病院 2024.9.30

司会

1. 大村東生 irAEマネジメントWebセミナー 座長 2024.9.19(札幌)
2. 大村東生 第18回 With You Hokkaido~あなたとプレストケアを考える会~ ファシリテーター 2024.10.12(札幌)
3. 大村東生 ワーキングサバイバーズフォーラム2025 コーディネーター 2025.3.30(札幌)

看護部

全国学会(一般演題、ポスター、口演、講演)

1. 大串祐美子 「多発骨転移を有する進行がん患者への支持療法」 第62回日本癌治療学会学術集会・領域横断シンポジウム13 2024.10.25(福岡)
2. 松岡和史、能代真紀子、佐藤雅士、中村志保、別府翔、幸田 潑、渡邊真理子、菊地美優、高橋 彩、池田美和、伊与絵里、加藤遥平、長岡康裕、日下部俊朗 「NST介入により長期間化学療法を継続できている経口摂取不能頸胸部軟部肉腫の1例」 第40回日本栄養治療学会学術集会 2025.2.14~15(横浜)
3. 田崎美沙子 「日々のコミュニケーションからがん患者の最期の過ごし方に関連した価値観や希望を捉える病棟看護師の実践」 第39回日本がん看護学会学術集会 2025.2.23(札幌)
4. 青田美穂 「“がん”ってどんな病気?“ナース”ってどんな仕事?」 第39回日本がん看護学会学術集会 社会連携委員会企画 Nursing Science Café 2025.2.23(札幌)

座長

1. 納谷さくら パネルディスカッション3「がん患者へのアピアランスケア:誰もがケアを受けられる社会に向けて」 第39回日本がん看護学会学術集会 2025.2.23(札幌)

地方会(講演、口演)

1. 青田美穂 「正解なき領域を模索する～高齢者薬物療法の道しるべ～」 日本緩和医療学会 第6回北海道支部学術大会 教育講演 2024.8.31(札幌)
2. 安達里奈 「終末期にあるがん患者の外泊支援を通じて学んだこと」 北海道看護協会札幌第3支部 2024年度札幌第3支部看護研究発表会 2024.11.9(札幌)
3. 工藤美涼 「壮年期がん患者の不安に寄り添う看護ートータルペインの視点からー」 北海道看護協会札幌第3支部 2024年度札幌第3支部看護研究発表会 2024.11.9(札幌)

講義・助言

1. 青田美穂 「終末期看護論:エンド・オブ・ライフケアの実際」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 2024.5.9(札幌)
2. 青田美穂 「パリアティブケア:緩和ケア病棟でのケアの実際と多職種チームアプローチ」 札幌市立大学看護学部 2024.5.13(札幌)
3. 大串祐美子 「がん看護論:がん化学療法における看護」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 2024.5.13(札幌)
4. 大串祐美子 「看護概論」 日本医療大学保健医療学部看護学科 2024.5.21(札幌)
5. 青田美穂 「成人看護活動論I:緩和ケアが必要な人への看護」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 2024.5.24(札幌)
6. 二井矢ひとみ 「成人看護援助論演習II:緩和ケアにおける終末期看護の実践」 北海道科学大学保健医療学部看護学科 2024.5.30(札幌)
7. 納谷さくら <JNAラダーレベルII到達のための研修> 事例で学ぼうがん看護「高齢がん患者の生活を支える看護」 ファシリテーター 北海道看護協会 2024.7.3(札幌)
8. 白田里絵 「看護学の基礎:医療法人東札幌病院における看護の実際」 北海道文教大学医療保健科学部看護学科 2024.7.4(恵庭)
9. 納谷さくら 緩和ケア看護学特論I「社会的苦痛に対する緩和ケア」 東北大学大学院 2024.7.22(Web講義)

10. 大串祐美子 「成人看護学方法論IV:がん治療と看護」 北海道看護専門学校看護学科 2024.9.20. 10.4. 10.7(札幌)
11. 納谷さくら、岩崎涼果、川村修子 第18回With You Hokkaido～あなたとプレストケアを考える会～ ファシリテーター 2024.10.12(札幌)
12. 青田美穂 「成人看護学方法論IV:終末期にある人と家族の理解 ①、②、③」 北海道看護専門学校看護学科 2024.10.25. 10.28. 11.1(札幌)
13. 二井矢ひとみ 終末期の患者を支える看護「身体症状のマネジメントとケア」「精神症状のマネジメントとケア・社会的・スピリチュアルケア」「家族・遺族ケア」「死亡時の看護」 北海道医薬専門学校看護学科 2024.11.8. 11.11. 11.15(札幌)
14. 大串祐美子 「成人看護活動論II:がん化学療法における患者の援助」 札幌保健医療大学保健医療学部看護学科 2024.11.14(札幌)
15. 納谷さくら 緩和ケア看護学特論II「臨死期の諸症状とケア」 東北大学大学院 2024.12.25(Web講義)
16. 納谷さくら 成人看護学方法論IV「終末期にある人と家族の看護」「終末期・緩和ケアにおける倫理」「死の看取りの援助」 北海道看護専門学校看護学科 2025.1.21. 1.28. 2.4(札幌)

執筆

1. 二井矢ひとみ 「医療安全と患者の尊厳 転倒リスクがあるのに離床センサーマットを外していいの？」 濱口恵子・後藤志保(編) 2025, 144-150, がん看護と看護倫理 へるす出版

看護部(感染制御部門)

講義・助言

1. 上原拓海 「協力医療機関連携に係る感染対策研修」 社会福祉法人モニカ ケアハウス桜 2024.9.18(札幌)
2. 上原拓海 「高齢者施設等感染対策向上加算 感染対策研修」 厚別老人保健施設ディ・グリュエネン 2024.11.26(札幌)
3. 上原拓海 「高齢者施設等感染対策向上加算 施設訪問」 厚別老人保健施設ディ・グリュエネン 2025.3.27(札幌)

薬剤課

座長

1. 岡崎一真 日本緩和医療学会 第6回北海道支部学術大会 口頭発表① 2024.8.31(札幌)

全国学会(口頭発表、ポスター、演題発表)

1. 岡崎一真、加藤遥平、和泉早智子 「実臨床におけるPola-R-CHP療法による化学療法誘発性末梢神経障害についての検討」 第34回日本医療薬学会年会 2024.11.2～4(千葉)
2. 千崎可奈子、加藤遥平、和泉早智子 「東札幌病院における連携充実加算の算定向上への取り組み」 第34回日本医療薬学会年会 2024.11.2～4(千葉)
3. 和泉早智子、加藤遥平、千崎可奈子、伊与絵里 「一包化監査支援システムの導入がもたらす安全な薬剤供給」 第34回日本医療薬学会年会 2024.11.2～4(千葉)
4. 加藤遥平、小池奈穂、嘉代愛弓、和泉早智子、三原大佳 「タキサン構造本体に由来するアナフィラキシーと考えられた乳がん術後補助化学療法患者の1例」 第34回日本医療薬学会年会 2024.11.2～4(千葉)
5. 岡崎一真 「実臨床におけるPola-R-CHP療法による化学療法誘発性末梢神経障害についての検討」 第14回がん薬物療法研究討論会 2025.2.22(札幌)

栄養課

全国学会(口演)

1. 菊地美優 「緩和ケアチームとの連携により自宅退院が可能となった乳がん術後多発骨転移の1例」 第40回日本栄養治療学会学術集会(JSPEN) 2025.2.14～15(横浜)

講義

1. 渡邊真理子 「緩和ケアを中心とした栄養管理」 令和6年度札幌市保健所特定給食施設研修会 2025.1.22～24(札幌・Web開催)

表彰

1. 令和6年度栄養関係功労者厚生労働大臣表彰(特定給食施設) 2024.10.13(東京)

リハビリテーション課

全国学会(一般演題、ポスター、ランチョンセミナー)

1. 石川美哉子 第7回日本がん・リンパ浮腫理学療法学会学術大会 シンポジウム がん理学療法～新たな分野への挑戦～ 2024.11.16(函館)

講義・助言

1. 庄子 翼 「老年期の作業療法の実際ーがん・終末期」 北海道大学 2024.6.12(札幌)

司会等

1. 石川美哉子 2024年度札幌がんのリハビリテーションE-CAREER研修会 ファシリテーター 2024.7.13(札幌・Web開催)

地域福祉部

講義・助言

1. 平田麻紀子 「介護給付費適正化推進特別事業 アドバイザー」(令和6年度)
2. 平田麻紀子 「小樽市介護給付費適正化ケアプラン点検」 2024.9.20(小樽)
3. 平田麻紀子 「北海道主任介護支援専門員更新研修」 2024.8.16～17. 10.7～8. 11.7～8(札幌)
4. 平田麻紀子 「北海道地域包括支援センター職員研修(現任者研修)」 2024.9.25. 2025.2.5(札幌・Web開催)
5. 平田麻紀子 「北海道地域包括支援センター職員研修(初任者研修)」 2024.12.12(Web開催)
6. 平田麻紀子 「北海道介護予防支援従事者研修」 2025.1.23(Web開催)



へき地医療の取り組みについて

東札幌病院 副院長 長岡 康裕

東札幌病院では2025年4月より社会貢献活動の一環として、えりも町国民健康保険診療所へ医師の診療応援派遣を開始しました。

当院は創設者である石谷理事長の考えで開設以来、常に地域の皆様に貢献することを重視して長年診療してきました。今回はさらにその考えを発展する形で、北海道の地域医療の充実に貢献するため派遣業務を行う方針となりました。

ご縁があり、当院の考えと、常勤医が減少し安定した医師派遣元を探していたえりも町の双方の考えが一致し、派遣受け入れが決定いたしました。まずは4月より毎週水、木曜日2日間、当院の内科医師をえりも町診療所へ診療応援に派遣させていただくことから開始し、今後はさらに連携を深めていくことを目指しています。

また、今回のへき地診療派遣をきっかけに、当法人は今後、社会医療法人取得を見据えており、より公共性が高い組織として、地域の皆様にさらに信頼していただける病院を目指して努力してまいります。



診療所外観



バスの車窓からの太平洋

※えりも町（面積283.93km² 人口3,967人）※2025年5月末現在

北海道の東南端に位置する、豊かな水産資源と雄大な自然景観に恵まれた漁業と観光のまちです。日本屈指の強風地帯で、「風極の地」とも呼ばれています。まちの歴史は古く、約300年以上前に松前藩の昆布場所として拓かれました。コンブやサケ、ウニなど、豊富な魚介類が水揚げされており、地域経済の主力を成しています。また、全国的に知名度の高い「襟裳岬」や断崖絶壁の海岸が続く「黄金道路」など数多くの景勝地を有し、年間30万人以上の観光客が訪れています。

※えりも町国民健康保険診療所

地域の公的医療機関として、一次医療や急性期医療に対応するとともに、保健・福祉と密な連携をはかり、医療・保健・福祉が一体となって、町民が健康でしあわせに暮らせるまちづくりのため、安心・安全な医療を提供しています。

開設者 えりも町

設立 昭和41年（現施設平成9年4月開設）

病床数 19床

職員構成 常勤医：1名（内科医）、看護師：14名、看護助手：5名、放射線技師：1名、臨床検査技師：1名、事務他：9名

※社会医療法人

「公益性の高い医療」を担うことを目的として、2006年の医療法改正により創設された医療法人の一形態。一般の医療法人と異なり、救急医療、へき地医療、小児救急、災害医療など、採算が合いにくい地域に不可欠な医療を積極的に提供する義務があります。また、税制優遇や社会医療法人債の発行による資金調達なども可能となります。

この制度は、自治体病院の経営難や医師不足といった課題に対応するため、民間医療機関が地域医療の担い手となることを促進する目的もあり導入されました。

（参考 えりも町公式ホームページ）

第5回 がん緩和ケアに関する国際会議： 5th Sapporo Conference for Palliative and Supportive Care in Cancer (SCPSC)のプログラム

事前
参加登録

Webサイトにて
受付中

一般演題
募集

Webサイトにて受付中
2025年11月28日まで

2026. **7.10** Fri.

シンポジウム1
08:00-12:00

がん疼痛に対するオピオイド：新たな科学とベストプラクティス

座 長： **David Hui** (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

パネル 1

序論：オピオイド応答の新たな科学

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイド応答のゲノム-ワイド関連解析：がん疼痛管理への意義
西澤 大輔 (東京都医学総合研究所)

がん疼痛に対するオピオイド療法：薬理遺伝学的解析のインパクト
D.Max Smith (Georgetown University, USA)

がん疼痛においての神経炎症：
オピオイド療法における腫瘍微小環境の役割

Angela Santoni (Sapienza University of Rome, Italy)
Edoardo Arcuri (Regina Elena Cancer Institute of Rome, Italy)

パネル 2

序論：がん疼痛に対するオピオイド使用の臨床アップデート

David Hui (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)
Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

がん疼痛治療におけるブプレノルフィンとメサドン

Russell Portenoy (Albert Einstein College of Medicine, USA)

オピオイドが免疫応答と内分泌機能に与える影響

Jason Boland (Hull York Medical School, UK)

オピオイドの(脳科学的な)強化(Reinforcement)／
報酬(Reward)に与える影響：乱用のリスクとその緩和戦略

Joseph A. Arthur (University of Texas MD Anderson Cancer Center, USA)

ランチョンセミナー1
12:00-13:00

医療、ナチズム、及びホロコーストに関するランセット委員会：
歴史的エビデンス、今日における意義、明日への教訓
Herwig Czech (Medical University of Vienna, Austria)
座長：Declan Walsh (Levine Cancer Institute, USA)

シンポジウム2
13:00-17:00

がん患者への個別化された緩和ケアとサポーターティブ・ケアの時代： 進歩と革新

座長：**Areej El-Jawahri** (Massachusetts General Hospital, USA)
中川 俊一 (Columbia University, USA)

※本セッションでは、終末期における化学療法、放射線治療、免疫療法、標的療法、緩和手術などの緩和治療の妥当性について議論する

進行がん患者に対する緩和ケアの役割

Jennifer Temel (Massachusetts General Hospital, USA)

血液悪性腫瘍患者に対する緩和ケア：現在の動向と将来の方向性

Areej El-Jawahri (Massachusetts General Hospital, USA)

新規治療法と個別化医療の時代における緩和ケア

Jessica Bauman (Fox Chase Cancer Center, USA)

ギャップを埋める：外科の質向上のための緩和ケアの活用

Ana Berlin (Columbia University, USA)

イブニングセミナー
17:00-18:00

未来のケアプランニング - 緩和ケア患者のためのより良いプランニングに関するヨーロッパの視点
Mark Taubert (Cardiff University School of Medicine, UK / ヨーロッパ緩和ケア学会 副理事長)
座長：高田 弘一 (札幌医科大学)

2026. **7.11** Sat.

シンポジウム3
8:00-12:00

緩和ケアにおける患者と臨床医の出会いに対する精神力動的視点

座長：**Friedrich Stiefel** (University of Lausanne, Switzerland)
Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, France)

緩和ケアにおける患者と臨床医の出会いに対する精神力動的視点の現状
精神力動的心理学により形成される臨床医と患者間のコミュニケーションの違いを理解する

Friedrich Stiefel (University of Lausanne, Switzerland)

精神分析理論の基本的諸仮定とそれらの緩和ケアへの関連性
緩和ケアに適用される精神分析理論の臨床的視点

Sarah Dauchy (APHP, Centre University of Paris, France)

精神力動的アプローチが医学と緩和ケアにどのように貢献するか？
初期の精神分析からその後の医療分野への適用までの歴史的な道のり

James Levenson (Virginia Commonwealth University, USA)

精神療法的アプローチと緩和ケアはどのようにがん医療に統合され得るか？
精神分析的ケアと緩和ケアの統合がもたらす臨床的付加価値について

Camilla Zimmermann (University of Toronto, Canada)

「内側」からの視点：緩和ケアにおける精神腫瘍医としての働き方
精神力動的指向を持つ精神科医による患者と臨床家へのアプローチ

清水 研 (がん研究会有明病院)

ランチョンセミナー 2
12:00-13:00

比較文化学におけるスピリチュアリティ、スピリチュアル・ケア
Karen Steinhauer (Duke University, USA)
座長：小西 達也(武蔵野大学)

シンポジウム4
13:00-16:30

帮助死(安楽死、VAD、MAID)と緩和ケア：表裏一体か？

座 長： **Luc Deliens** (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)
David Currow (University of Wollongong, Australia)

第1部 世界における帮助死の実践と経験

世界における帮助死法制と実践の進展

Luc Deliens (Vrije Universiteit Brussel & Ghent University, Belgium)

帮助死が長期にわたり合法とされている国々で得られた
緩和ケアと帮助死の関係に関する実証的エビデンス

James Downar (University of Ottawa, Canada)

ビクトリア州での合法化以来、オーストラリア各州において、
自発的幫助死に関する法律に緩和ケアの臨床医はどのように対応してきたか？

David Currow (University of Wollongong, Australia)

スイスの帮助死制度における緩和ケア医の経験

Claudia Gamondi (University of Lausanne, Switzerland)

第2部 映画上映

“The Last Flight Home”

監督: **Ondi Timoner**

1982年7月、イーライ・ティモナーは突然の脳卒中で左半身不随となり、53歳でエア・フロリダのCEOを辞任せざるを得なくなった。当時、彼は1日2マイルを走り、テニスをし、健康的な食生活を維持していたのだが、その後は、歩行が不安定なまま生涯を終えた。

イーライ・ティモナーは2021年1月、呼吸困難で入院。我々は、イーライ・ティモナーの最期の日々、素晴らしい功績、悲劇的な喪失、そして何よりも永続的な愛に満ちた比類なき人生を目の当たりにする。「The Last Flight Home」は、彼の最後の旅路を、彼の勇気ある家族が最後まで見守るという、感動的な社会体験を描いた作品である。

この映画は、米国ユタ州パークシティで開催された2022年サンダンス映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞を受賞した。

※この映画の予告編はYouTubeで見ることができます。Luc Deliensがアメリカの学会でこの映画全編をレビューしたところ、帮助死における緩和ケアの重要性と複雑さを示す非常によくできた作品であった。プロデューサーのMark Barger (New York city, USA)は、約1時間30分のドキュメンタリーを、日本語字幕を含めて45分に短縮することに同意した。

第5回

がん緩和ケアに関する国際会議 完全同時通訳

主 催 医療法人 東札幌病院

大会長 小船 雅義(札幌医科大学)

会 期 2026年7月10日(金)・11日(土)

会 場

札幌パークホテル

〒064-8589 札幌市中央区南10条西3丁目

TEL 011-511-3131

<https://park1964.com/access>

事務局

医療法人 東札幌病院

〒003-8585 北海道札幌市白石区東札幌3条3丁目7番35号

TEL 011-812-2311(代表) FAX 011-823-9552

E-mail: office@sapporoconference.com

ホームページ: <https://www.sapporoconference.com>

外 来 医 師 ス ケ ジ ュ ー ル

★救急対応

(2025年5月20日～)

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午 前	9:00～12:00	1診 (内科初診)	担当医	日下部	担当医	担当医	担当医	交代制★ (内科初診／再診)
		2診	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	石谷 (一般内科)	三原 (一般／腫瘍内科)	三原 (一般／腫瘍内科)	出張医 (内科初診／再診)
		3診 (消化器内科)	日下部	長岡	渡邊	伊藤	日下部	
		4診 (循環器内科)	高木	岡林	高木	秋津	秋津	
		5診	梅田 (呼吸器内科)	奇数週 村田 (整形外科)	出張医 (呼吸器内科)	藤田 (一般／血液内科)	松永 (一般／血液内科)	
		6診 (一般外科)	信岡	信岡	石井	信岡	石井	交代制
		7診	久村 (心療内科)	★	前田 (乳腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)	照井 (一般／糖尿病内科)	
		8診(11:00～) (発熱者・必要時に対応)	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
		歯科・ 歯科口腔外科	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	交代制

	診療時間		月	火	水	木	金	土
午 後	14:00～17:00	1診(13:30～) (内科初診／再診)	三谷	出張医	出張医	須釜★	三谷	
		2診	藤田 (一般／血液内科)	松永 (一般／血液内科)	町野★ (一般／緩和ケア内科)	町野 (一般／緩和ケア内科)	出張医 (一般／緩和ケア内科)	
		3診	佐賀★ (消化器内科)	伊藤★ (消化器内科)	渡邊 (消化器内科)	照井 (一般／糖尿病内科)	長岡★ (一般／消化器内科)	
		4診	秋津 (循環器内科)	偶数週 久野 (循環器内科)	照井 (一般／糖尿病内科)	高木 (循環器内科)	出張医 (脳神経内科)	
		5診		梅田 (呼吸器内科)	井須 (整形外科)	梅田 (呼吸器内科)	須釜 (一般／血液内科)	
		6診 (一般外科)	石井・信岡	久慈	久慈★	★	久慈	
		7診	中村 (乳腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)	大村 (乳腺・甲状腺外科)		★／第2週 九富 (乳腺外科)	
		8診						
		内視鏡室				頭頸部外科出張医		
		歯科・ 歯科口腔外科	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	水越／太子 大内／石谷	

※8診午前は発熱者・必要時に対応(当日予約のみ) 月～金曜日11:00～

※6診午後の外科外来は、手術等により診療時間が変更となる場合があります。

※外来受付時間 午前の外来 月～土曜日 11:30まで 午後の外来 月～金曜日 16:30まで

※土曜日は交代制となっております。詳細はお問い合わせください。

※緊急対応等に備え、内科医師1名は13:30から待機いたします。

※当院では、待ち時間短縮のために予約制を導入しております。予約外診療も行っております。詳細は受付にお問い合わせください。

※病をよく識る外来(要予約)

※セカンドオピニオン外来(要予約)

※石谷外来 火曜日9:00～11:00

※放射線治療外来は、地下1階診察室です。



●交通のご案内
地下鉄東西線「東札幌駅」より
徒歩5分

駐車場について

当院の駐車場はゲート式になっております。駐車場ご利用の方は、受付または事務室にて駐車券をご提示ください。ご利用料金は以下の通りです。

ご利用料金

外来受診・お見舞いなど、当院ご利用の方は、3時間無料です(以後30分50円)。

医療法人東札幌病院は、公益財団法人日本医療機能評価機構による病院機能評価(一般病院2 3rdG: Ver.2.0)の認定を受けています。

■認定期間
2020年9月26日～2025年9月25日



日本医療機能評価機構
認定第 JC669 号

一般病院2 3rdG: Ver.2.0

Higashi Sapporo Hospital

医療法人 東札幌病院

〒003-8585
札幌市白石区東札幌3条3丁目7-35
電話 011-812-2311 (代表)
FAX 011-823-9552
E-mail: info@hsh.or.jp
HP: <https://www.hsh.or.jp>

東札幌病院は皆様に次のような権利があることを認め尊重致します。

1. 医療を受けるにあたって、大切な一人の人間として尊重されます。
2. 受診される方の個人情報やプライバシーが守られます。
3. 病状や病名・検査結果、受ける処置やケアの内容等について十分な説明を受けられます。
4. 適切な説明のもとに受診される方の意志が尊重され、最良の治療やケアが選択できるように支援されます。
5. 身体的なことだけではなく、必要に応じて社会的・心理的な事柄に関しても支援されます。
6. 療養の経過すべてにわたって、ご希望されれば複数の医師の意見を求めることができます。
7. 最善で安全な医療と必要な健康教育をうけることができます。
8. 医学研究等に参加をお願いすることがありますが、拒否することによって不利益を被ることはありません。

東札幌病院を受診される皆様に御協力いただきたいこと

1. 心身の健康に関する情報について担当者にお伝え下さい。
2. 医療者の説明が不十分な時には、十分理解できるまで質問して下さい。
3. 治療やケアの方針を決めるときには、ご遠慮なく医療者と話し合ってください。
4. 医療者と共につくった治療やケアの計画に積極的に参加して下さい。
5. 院内では常識的な社会人として行動して下さいようお願いいたします。
6. 東札幌病院は全館禁煙です。ご理解とご協力をお願いいたします。
7. 東札幌病院では各階に提案箱を設置しております。ご意見やご要望がありましたらご遠慮なくご利用下さい。